

平成 29 年度 第 3 回静岡市市民活動促進協議会（第 6 期） 会議録

- 1 開催日時 平成 30 年 3 月 14 日（水） 10 時 00 分～12 時 00 分
- 2 開催場所 静岡市役所本館 3 階 議会特別会議室
- 3 出席者 <出席委員>金川会長、山本副会長、池田委員、伊藤委員、片井委員、  
栗田委員、近藤委員、中村委員、北川委員、弓削委員、  
吉田委員  
<欠席委員>後藤委員  
<オブザーバー>磯谷清水市民活動センター長  
<事務局>大川市民局次長、小畑市民自治推進課長、加藤課長補佐、  
佐々木主査、横田主事
- 4 傍聴者 0 人
- 5 議題 (1) 市民活動支援システムの開設について  
(2) 協働事業の取組み状況について  
(3) 協働パイロット事業について  
(4) しずおか自治取組み発表会について

6 協議内容

(金川会長)

第 1 回目の会議で示されたとおり、今期の協議会のテーマは、「市民活動促進基本計画」の見直しとなります。前回の会議では、現行の計画や前期協議会の答申内容を改めて見ていきながら、見直しが必要な項目や、本計画の課題についてご確認いただきました。その際いただいたご意見を、参考資料として事務局がまとめておりますので、これからの議事では、そちらも参照いただきながら、またご意見をいただければと思います。

それでは、1 つ目の議題、「市民活動支援システムの開設について」事務局から説明をお願いします。

**【事務局説明】**

(金川会長)

本事業につきましては、現計画の「電子交流掲示板」という表記を改め、その内容を見直

し計画に落とし込むことになると思いますが、ただいまの説明に対しまして、ご意見やご質問など、ありますでしょうか。

(金川会長)

期待のもてるウェブサイト、システムになりそうな感じがして、非常にオープンが楽しみです。先の課題かもしれませんが、静岡シチズンカレッジ こ・こ・こに 以外の市が実施している講座が統合される可能性はあるのでしょうか。

(事務局)

個人情報をも目的外では使わないということが大前提としてありますので、各課で個別に実施している講座の受講生情報を統合する予定はありません。講座がこ・こ・こに加われば、システムで管理することになります。

(栗田委員)

こ・こ・こに修了生人材バンクですが、修了生というのは何年度からの修了生でしょうか。

(事務局)

こ・こ・こにが始まったのは平成 27 年度なので、平成 27 年度以降の方に限っています。

(伊藤委員)

こ・こ・こに修了生にメールで情報を送信するというのですが、メールアドレスを持っていない方はどうなるのでしょうか。

(事務局)

システム構築は、私たち市民自治推進課が行いますが、こ・こ・こに人材バンクの運営は、こ・こ・こに事務局を担当する生涯学習推進課が担当します。

生涯学習推進課では、修了後の翌年度末には事後アンケートということでその後のフォローアップを郵送しており、その際に案内のチラシ等をいれたりしています。このように限定的に郵送で行っています。

(伊藤委員)

このシステムをいかに広めていくかっていうのは、やはりインフルエンサーと呼ばれるような人に積極的にシステムを使っていただいて、市民活動を広めていただくのが重要だろうと思います。こ・こ・こに修了生は、当然意識の高い方たちですので、アピールしていただければと思います。

(栗田委員)

大量の情報が毎日メールで届くので、すべて見ない方もいます。郵送は、手数料やお金もかかるかと思いますが、情報を見る確率が高いこともありますので、メールだけにされてしまうとちょっと残念な気もします。郵送も一部残していただけるといいと思います。

(事務局)

生涯学習推進課に伝えさせていただきます。

(山本委員)

こ・こ・に修了生向けのメールは、情報を受け取るだけで対話的に使うことはできないのですよね。

(事務局)

全員に配信してもらいたいものについては事務局に依頼をするような形で、受付の窓口をつくれますので、そこに依頼していただくと、修了生全員に配信されます。

(山本副会長)

こ・こ・に生が仲間を募りたいからそれで探すってことはできないってことですよね。

(事務局)

直接はできないのですが、事務局で一回預かって、まとめた情報を送るという感じで、間接的というか事務局を経由してという形でできます。

(山本副会長)

検索とかはできないけど、広報に使うことはできるということですね。

(山本副会長)

単に市民委員の人材不足対策であれば、エクセルのリストでもよかったですと思いますが、他の使い方イメージされていることがあれば、ぜひ教えてください。

(事務局)

市民協働という場合、団体だけではなく個人の場合もあります。講座受講情報だけでなく、活動情報なども登録すると聞いていますので、修了生について、住む地域や活動情報を検索キーワードとして入れながら使っていくということも考えています。

(山本副会長)

ある種のマーケティングではありませんが、どこかに的を絞って探そうと思ったときに使うイメージですね。

(事務局)

そうですね。今の段階では、どこにどのような方がいるか市もわかりません。こ・こ・こに受講されたということは、何らかの形でまちづくりに関与する意欲がある方というだと思います。そういった方を探すことができるようになると考えています。

(吉田委員)

市民活動支援システムの利用者を増やすための広報、周知はどのようなものを考えていますか。LINE や Facebook で簡単にシェアできればいいと思います。また、どこまで利用者が簡単に情報登録できるか、ハードルを下げるのがポイントだと思います。

(事務局)

まず、広報については、広報紙5月号に掲載予定です。フリーペーパーのW o m o にも掲載を予定しています。また、市ホームページ、市 Facebook ページ、市 twitter にも掲載します。

今回テーマページも作りますが、子育てのテーマページであれば、子育て支援サイトとの相互リンクを考えています。また、大学生に聞いたところ就職活動の関係でボランティア情報のニーズあるとのことでしたので、ボランティア情報が探せるウェブサイトとして、市と大学と大学連携協定を利用して、大学の事務局から学生向けメールや大学の掲示板などへの掲載の協力を得られないかと考えています。

そのほかにも各課で実施しているイベントでウェブサイトの紹介やチラシを配布など考えています。

もう一点、操作性は重要だと考えています。登録情報は多くなりがちですが、できるだけわかりやすくしたいと考えています。また、市民活動センター利用登録団体については、こちらで持っている情報はあらかじめ登録し、自分で入力しなければならない項目を減らす工夫をしています。

ひとりひとりの市民の方がなんらかの形で情報提供をする機能として、主たる機能ではありませんが、写真投稿機能を用意しました。LINE BOT という、対話形式で入力していく、わかりやすいインターフェイスを用意しています。

LINE のエバンジェリストの方にお会いした際に聞いたところ、行政が情報を受け取る方法としてLINE BOT を使うのは初めてではとのことでした。私も試してみましたが、とても簡単でした。

(金川会長)

それでは、次の議題に協働事業の取組み状況について、説明をお願いします。

【事務局説明】

(金川会長)

まず、介護保険事業が入っていないと思いますが、どのような基準で入らないのでしょうか。また、自治会・町内会には補助金が交付されていると思いますが、それはカウントされているのでしょうか。

(事務局)

協働事業の一覧は、一定の基準を示して庁内全課に照会をかけて、協働を進めるためにどんな事業をすすめているか照会をして、それに対する回答、結果をまとめたものです。担当課で判断して回答していますので、具体的内容については担当課に確認する必要があります。

(金川会長)

件数は、たとえば自治会・町内会が複数あつて補助金を交付しても1件でカウントするのでしょうか。

(事務局)

そうです。それから、たとえば自治会・町内会の補助金でも、当課の場合、実際に自治会・町内会の方に動いていただく行政文書配布などは含まれますが、集会所の建設費補助金は入っていません。

(山本委員)

協働についても、その前提をはっきり記された方が良いと思います。この協働事例のデータが、先ほどのシステムに載るということではないですよね？ 協働が活発な地域が地図からわかると、システムの意味が更に厚みを増すのではないかと。少し夢が入っていることは十分承知していますが。せつかくのデータを活かすことをどんどん考えたらいいのではないかと思います。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。たとえば、富山県氷見市では、財務会計システムに事業の執行場所を入力することで、地域別にどれだけ使ったのか統計的にとっているという話を聞いたことがあります。この件は研究課題とさせていただきます。

(山本委員)

難しいと思いますが、市全体でやるべきことの優先順位を決めて、市が何に手を付けているか見えると、薄いところは民でやるのかとか、企業がお金出すという話もあるかもしれません。地域全体の経営情報としていいのではないかと思います。

(弓削委員)

これをどういう基準でとるかっていうものを一度つくられないと、やっぱり議論がしにくいです。協働の目的と効果、その内容が知りたいと思います。

(金川会長)

協働とは何かを議論する時間はありませんが、協働とは何か。そして協働事業を調査する場合の協働について、我々も検討をしていくし、事務局にも取り組んでいただくということでもよろしいでしょうか。

(事務局)

わかりました。

(金川会長)

次は協働パイロット事業について説明をお願いします。

#### 【事務局説明】

(金川会長)

ありがとうございます。29年度の審査結果と30年度の事業募集についてですね、二つについて説明いただきましたが、ご質問等ございましたらお願いします。

(池田委員)

今回、私、里山くらしLABOとして採択していただきパイロットをやらせていただきました。あと奥わらママの方も関わらせていただいています。この事業はとても有効な事業でしたが、ただひとつもう少し良くなったらいいなと思うのが、協働ということに関しての各課の意識の違いってすごく出ているということです。お金が出るからやってもらえばいいよ、好きな事やってくれればいいよっていう課もあれば、一緒になってやってくれた課というのもありました。やはり協働というのは共に動くべきであるって考えると、もちろん市民団体の方も企画の内容ももちろんなのですが、静岡市としてどのように動くか、そして逆にどのように動いたかということも踏まえたうえでの来年度反映をしていただけるといいなと思いました。

(金川会長)

ありがとうございます。実際に資金を受けて運営をされている団体からの意見ということです。先ほどから出ています協働とは何かというところにも関わってくるかと思います。この辺は事務局の方から補足がありますか。

(事務局)

今年度応募した団体 20 団体すべてに担当者割り振り、打ち合わせする際には必ず私たちも同席しています。団体が担当課と直接話をしてもなかなかうまく話が通じないことがあるので、両方に対してフォローをしながら通訳するような感じで今年度関わりました。担当課の間で温度差があるというのは承知しています。職員の意識による違いもあると思いますので、協働パイロット事業を進めながら協働に意識を醸成していきたいと思っています。

(弓削委員)

私も、まちなびやとして昨年、協働パイロット事業に応募しました。いま言っておきながら、担当課と市民自治推進課の方が入ってくださり、自分がやりたい事業を誰とできるかを事前に相談させていただけるのは非常によかったです。

今まで、パイロット事業の前段階でそこまで手厚く動くことはありませんでしたし、そもそも評価の視点が最近明確になっていて、以前採択された時よりも、講評も公開され透明度が上がっていて、協働ってというのが他の人に見やすくわかりやすくなっているのが本当にいいなあと思うのです。ぜひ協働パイロット事業を実施した成果、評価も今後出していただければと思います。

(金川会長)

事後評価の話ですが、終わった後は報告書が出てくると思いますが、どのような取り扱いをされていますか。

(事務局)

事業完了報告書という形で報告書を提出いただき、それを市ホームページで公開しています。ただ、どのように振り返り、評価するかは検討しているところです。案としては出ているのは、協働パイロット事業の説明会の際に、成果発表会を一緒に開催したほうがよいのではないかと担当者レベルで話をしています。

(山本委員)

成果発表会ではその場に集まった人しかシェアできないので、ぜひ新しいシステムの特設ページに、協働パイロット事業だけでも作っていただきたいです。素晴らしい成果がある

ということだけでなく、担当課に向かって苦しかったとは言えないので、できれば第三者のインタビュワーに入っていただくなど話やすい場で、数字で載せられない、載せきれないというのはどうしてもあるので、定性的に載せるのも一つのやり方ではないかなと思います。

(事務局)

システムに特集記事を掲載するという予算は取れましたので、協働パイロット事業を対象として記事化することも検討していきます。

(中村委員)

平成30年度の協働パイロット事業の課題テーマをみると、本来、各課で予算をとるべきものが含まれていると思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

課題テーマは事前に審査しており、課題テーマにそぐわないということで取り下げてもらった事例もあります。また、今年度の水産漁港課の場合は、新しいアイデアもった団体の提案を募集したいとのことで、次年度継続する場合には担当課で予算を確保することになっています。

(金川会長)

それでは次の議題、しずおか自治取組み発表会について、お願いします。

(池田委員)

【しずおか自治取組み発表会について説明】

(金川会長)

ありがとうございます。素晴らしい取り組み。受賞おめでとうございます。今の話に対してご質問はございますか。

(伊藤委員)

新聞記事で移動支援にも挑戦していくってことで、両河内の取組が紹介されていますが、地域での移動支援について、こういった方向性があるのでしょうか。

(池田委員)

両河内の取組みは、静岡市の支援で行っているのでも、行政の動きがないとできないという大前提のもとでできている企画です。移送支援を求めている人は多いと思いますが、地域に

よってニーズが違います。高齢者のための移動支援から、子どもたちの通学に対する移動支援、逆に移動ではなく物を運ぶことで、買い物支援があれば移動支援はいらぬというのもあり、多岐にわたります。

(山本委員)

この事業は素晴らしい事業だと思いますが、次年度継続について検討は進んでいますか？

(事務局)

検討中です。

(金川会長)

今年度の協議は本日で終わりとなりますが、また、来年度は、これまでの協議を踏まえ、見直し作業を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

本日の議事は以上となりますので、進行を事務局にお返しします。